令和８年度病害虫発生予報第８号（１２月予報）概要表

令和８年１１月２６日
埼玉県病害虫防除所

作物名・病害虫名	予報内容	
	発生時期	発生量
１　水稲の冬期防除対策		
（１）スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）		
２　麦類の播種前防除対策		
（１）コムギなまぐさ黒穂病		
（２）黒節病（オオムギ黒節病、コムギ黒節病）		
（３）縞萎縮病		
（４）オオムギ斑葉病		
（５）シロトビムシ類		
３　トマト（冬春栽培）		
（１）灰色かび病		並
（２）黄化葉巻病		並
（３）コナジラミ類		やや多
４　いちご（本ぽ）		
（１）灰色かび病		並
（２）うどんこ病		並
（３）アザミウマ類		並
（４）アブラムシ類		並
（５）ハダニ類		並
（６）コナジラミ類		並
５　茶の冬期防除対策		
（１）チュウゴクアミガサハゴロモ		

表の見方について

・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。

※ 過去 10 年間で予報月に発生が確認されていない病害虫については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。

・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。

令和８年度病害虫発生予報第８号（１２月予報）

令和８年１１月２６日
埼玉県病害虫防除所

１ 水稲の冬期防除対策

病害虫名	防除上注意すべき事項
スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)	・土壌が乾燥して固い厳寒期に、トラクターの走行速度を遅く、ロータリーの回転速度を速くし、土壌を貝ごと細かく砕くようにして耕うんする。 ・貝は大部分が土中深さ 6cm 未満で越冬する。深い耕うんは貝を土中に埋め込み、越冬を助長する可能性があるため、耕うん深度を 6cm 程度と浅くする。 ・未発生ほ場への貝の持ち込みを防止するため、発生ほ場で使用したトラクターに付着した泥はしっかりと洗浄する。 ・暖冬により本種の越冬個体数は増加する。冬期の気温が高いことが予測されるため、発生ほ場における耕うんの回数を増やす。 ・用排水路で越冬した個体は通水後ほ場に侵入するため、地域で協力して厳寒期（１～２月）に堀さらいを行い寒風にさらす。

２ 麦類の播種前防除対策

病害虫名	防除上注意すべき事項
コムギなまぐさ黒穂病	・種子伝染するため、種子更新を行うとともに種子消毒を実施する。 ・土壌伝染する場合もあるため、前作で発生したほ場では作付を控える。 ・オオムギとコムギでは、なまぐさ黒穂病の病原菌が異なるため、被害が多発しているほ場では麦種を転換する。
黒節病	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（参照 1）を参考に、適期防除を実施する。 ・自家採種種子を使用する場合は、必ず種子消毒し、播種適期内で播種時期を遅らせる。
縞萎縮病	・播種後の土壌水分が多く、地温が高いと感染が増大するため、排水対策を実施し、播種適期内で播種を遅らせる。 ・オオムギとコムギでは、縞萎縮病の病原ウイルスが異なるため、被害が多発しているほ場では麦種を転換する。
オオムギ斑葉病	・発生後に使用できる薬剤はないため、播種前に種子消毒を実施する。 ・遅まきは発生を助長するため、適期播種に努める。
シロトビムシ類	・発生後に使用できる薬剤はないため、常発地では、播種前に種子消毒を実施する。 ・遅まきは発生を助長するため、適期播種に努める。 ・有機質肥料（米ぬか、油粕等）の施用は、種子への加害低減に有効であることから、基肥としての使用を検討する。

参照１：病害虫診断のポイントと防除対策　https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html

表の見方について

- 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- **並※**：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- **多※※**：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多※※」と示しています。
- 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- **予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。**

３　トマト（冬春栽培）

病害虫名	発生予想(発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
灰色かび病	並	○11 月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（＋）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（参照 1）を参考に防除対策を実施する。
黄化葉巻病	並	○11 月中旬の発生量：やや少 □11 月中旬のコナジラミ類の発生量：平年並（±）	
コナジラミ類	やや多	○11 月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い（＋）	・本虫はトマト黄化葉巻病ウイルスを媒介するため、「病害虫診断のポイントと防除対策」（参照 1）を参考に防除対策を実施する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 ・マルハナバチ等に影響があると考えられる薬剤は、使用時期に十分注意する。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策　https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html

表の見方について

- 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- **並※**：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- **多※※**：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多※※」と示しています。
- 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- **予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。**

４　いちご（本ぽ）

病害虫名	発生予想(発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
灰色かび病	並	○11 月中旬の発生量：無 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（＋）	・多湿により助長されるため、温湿度管理に注意する。
うどんこ病	並	○11 月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（＋）	・草勢の衰えや茎葉の繁茂により助長されるため、適切な肥培管理を行う。
アザミウマ類	並	○11 月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い（＋）	
アブラムシ類	並	○11 月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は高い（＋）	
ハダニ類	並	○11 月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は高い（＋）	
コナジラミ類	並	○11 月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い（＋）	
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 ・ミツバチ等に影響があると考えられる薬剤は、使用時期に十分注意する。 ・生物農薬（天敵）を使用している場合は、悪影響がないよう薬剤の選択に注意する。			

５　茶の冬期防除対策

病害虫名	防除上注意すべき事項
チュウゴクアミガサハゴロモ	・10 月 16 日発表の病害虫防除情報（参照 2）を参考に防除対策を実施する。 ・翌春の春整枝を励行し、本虫の産卵枝を除去・処分する。 ・手摘み園では産卵に伴う枝枯れが発生しやすいため、産卵枝の除去に努める。

参照 2：病害虫防除情報「チュウゴクアミガサハゴロモの防除について」（令和 8 年 10 月 16 日）
https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/info20261016.html

＜農薬使用上の注意事項＞

1　農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
2　剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
3　農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
4　周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
5　農薬の最新情報は、農薬登録情報提供システム（農林水産省）から検索できます。
農薬登録情報提供システム（農林水産省）　https://pesticide.maff.go.jp/

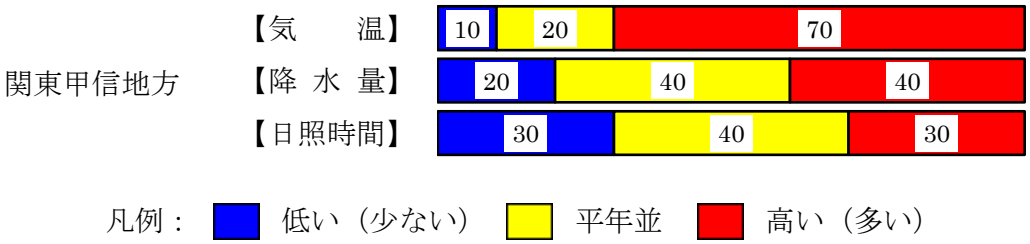
表の見方について
- 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- **予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。**

（参考）気象概要　１か月予報（令和８年11月26日発表）
出典：気象庁ホームページ
（https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area_type=offices&area_code=110000.html）

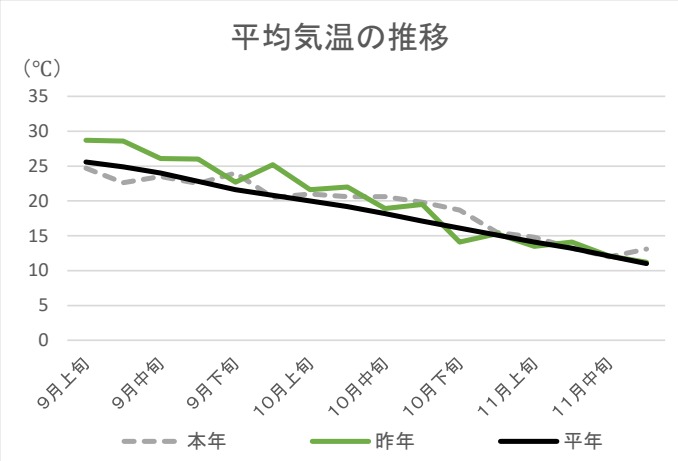
＜予報のポイント＞

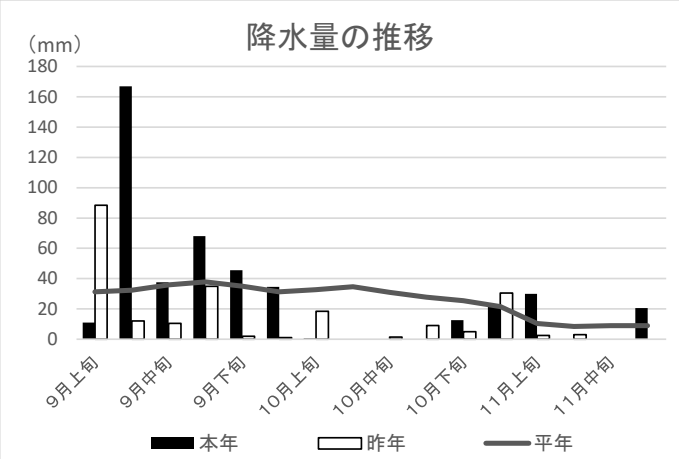
・寒気の影響を受けにくいため、向こう１か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
・低気圧や前線の影響を受けやすいため、向こう１か月の降水量は平年並か多いでしょう。

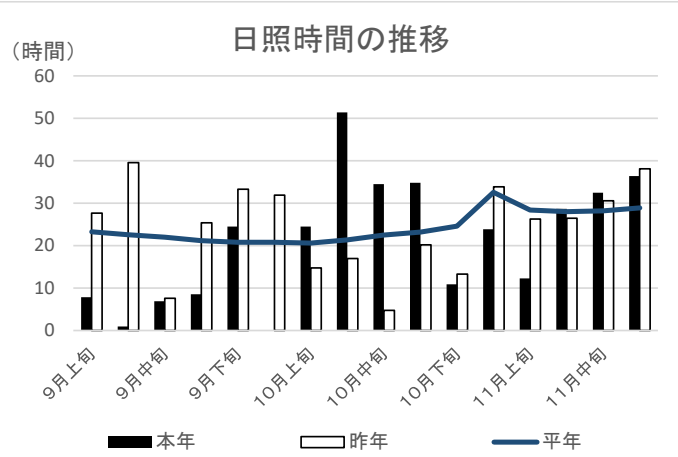
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞



（参考資料）過去の平均気温、降水量、日照時間（熊谷）







埼玉県病害虫防除所公式
最新情報を発信中

発生予察情報等を
いち早くお届けします

二次元コードを読み取り、
フォローをお願いします

@saitama_bojosho



PCの方はこちら→ https://x.com/saitama_bojosho

（参考情報）埼玉県総合防除計画

PCの方
下記のURLからご覧ください
https://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/sougouboujyo/20240322.html
（出典：埼玉県農産物安全課HP）

← スマートフォンの方
左の二次元コード
を読み取ると
全文を確認できます

問い合わせ先
埼玉県病害虫防除所
〒360-0102　埼玉県熊谷市須賀広 784
電話：048-539-0661　FAX：048-539-0663
E-mail：k3603114@pref.saitama.lg.jp
http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/